アジル・トラジジャゼリ

アジル・トラジジャゼリ

著者不明



この本は、くだらない本である。しかし、よく言われることだが、カジートらしさを感じさせるすべてのものと同じように、"g3al3i vaber3arita maas3i"、すなわち、「くだらないものが不可欠となった」のである。私が言うべきことのほとんどはこれまで文字にされてこなかったものである。よしんば文字にされていたとしても、誰も読めなかっただろう。インペリアルは後世のためにすべてを書き残しておくべきだと感じているが、エルスウェーアで生まれるカジートの子猫はみずからの歴史を知っている。母親のお乳といっしょに飲み込むのだ。

だが、ごく最近になって、貪欲なレヤウィン伯爵の手から祖国を奪い返さんとする闘争が、われらの立場に同情的な人々を引きつけるようになってきた。その中にはインペリアルもいて、運動に加わりたいと切に願っているものの、どうやらわれらの流儀がわかっていないらしい。もちろん、われらの敵もわかっていないが、それは武器としておきたいところだ。しかしながら、カジートでない友人は、われらがどういう存在で、どうしてこうなって、どんなことをしているのか知っておくべきだろう。

カジートの心は内省するように設計されていない。われらは単純にやりたいことをやるし、世界がどうなろうと知ったこっちゃない。哲学を言葉で伝えたり理論立てて説明したりするのはなじみのないことであり、この本を読んだところでわかるようになるとは保証できない。"Q'3i no vano th3ina uali33."、すなわち「矛盾を述べるとき、私は真実を語っている」という単純な真理をしっかりと理解していただきたい。

われらは、レンリジュラ・クリンである。「傭兵のニヤケ顔」、「土地ナシ小僧の笑顔」、「微笑むクズ」、どれもこれも妥当な翻訳であろう。軽蔑的な表現だが、面白いのでそのまま取り入れた。

われらは心では怒るが、顔では怒らない。エルスウェーアのために戦うが、土地の象徴である"たてがみ"と手を組むことはない。正義を信じるが掟には従わない。

"Q'3i no vano th3ina uali33."

これらは掟ではない。タ・アグラには「掟」という言葉がないのだ。われらの ""thji33rini"" すなわち、「浅はかな考え」とでも呼んでいただきたい。

そのー

"Vaba Do'Shurh'do"

すなわち、「勇ましいことはいいことだ」

われらはタムリエルの帝国そのものを敵にまわして無謀な戦いを挑んでいる。大義は何よりも気高い「祖国防衛」である。しくじれば、過去も未来も裏切ることになる。死者は"Ri'sallidad"、たいそう誤用が多いその言葉の意味をできるだけ正確に翻訳すると、"殉教者"である。犠牲を尊び、笑顔の下では死者を深く悼んでいる。

われらの勇敢さは、名にも含まれる「クリン」という笑顔に凝縮される。といっても、ヴァレンウッドのおつむの弱そうなサル顔のイムガのように、いつもにやにやしながら歩いているというわけではない。単純に、敵に楽しませていただいているのである。われらは公明正大な戦いなど退屈の極地だと考える。最後に勝つことがわかっているからこそ、自信たっぷりに笑う。それから、笑顔が敵の感情を逆なでることも知っている。

そのニ

"Vaba Maaszi Lhajiito"

すなわち、「逃げることも必要」

われらはタムリエルの帝国そのものを敵にまわして無謀な戦いを挑んでいる。名誉とは乱心である。もちろん、われわれは帝国軍との戦いで勇気ある死を遂げたレンリヤラクリンを愛していたが、こうしたリ・サリダッドはみんな使いこなせなかった脱出路を持っていて、「くそ」とつぶやいて死んでいったと自信を持って言うことができる。

偉大なるセンシェ・ラートがサイミシル・ステップにやってくると、狩もできなければ眠りにもつけないことに気づくだろう。ちびのアルフィクが背中でぴょんぴょん飛び跳ね、咬みついてきて、センシェ・ラートがその立派な体でアルフィクと対峙しようと振り向いたとたんにすっ飛んで逃げてしまうからだ。しまいには、なんとしてもアルフィクを捕まえてやると息巻きながらも、センシェ・ラートのほうから去っていくのである。アルフィクはわれらの遠類で、レヤウィンの巨大虎との対決では彼らの戦術を採択させていただいた。

撤退は汚辱だと考えるたくましい軍隊の一員になって決然と行進することに心底あこがれているなら、レンリジとは手を組まないほうがいい。われらは川辺のアシの草むらにすべり込み、避けられない殺りくを眺めながら、そうした自殺行為のような浅はかさを大笑いするだろうから。

その三

"Fusozay Var Var"

すなわち、「人生を楽しむ」

人生は短い。近頃愛し合っていないという読者は、どうかこの本を置いて、早急にやっちゃっていただきたい。浮気娘でもやんちゃ坊主でもとっつかまえるといい。一人と言わず何人でも、あなたの賢明なる下腹部が望むようにやればいい。それから、いかなる状況においても、もったいをつけたりしないように。軍隊とわれらの戦いは後回しにしたっていい。

よろしい。楽しんできたかな?

われらレンリジュラ・クリンはともに生き、ともに戦う。レヤウィンや帝国がすぐに、少なくともわれらが生きているうちに、折れるつもりはないことも知っている。与えられた時間において、もっとも近しい仲間がむっつりと、ぼんやりと、げっそりと、かっちりと、そしてバージンのまま生きていくのを見たくはない。そういうものが見たければ、帝国のブレイズにでも加わっていただろう。

われらのわいせつな冗談やべろんべろんに酔っ払った夜やムーンシュガーを、どうか嫌悪しないでいただきたい。これらはレヤウィンが与えない喜びだ。だからこそ、われらは陽気さをこれっぽっちもないがしろにしない。

その四

"Fusozay Var Dar"

すなわち、「迷わず殺せ」

人生は短い。ことのほか短い。レンリジュラ・クリンを欺いたことのあるものなら身に染みてわかっていようが。

われらは卑怯に戦う。敵と対峙すれば打算し、相手の剣が大きすぎるとみたらとんずらする。が、敵が背を向けていたら、私的見解では、ぶっ倒しておきたいところだ。それからそいつの首に飛びかかってへし折る。ぽきんという音がまた楽しい。もちろん、そうするもしないもあなたの勝手だし、こだわりのスタイルだってあるだろう。

その五

"Abzirr Durrarriss"

すなわち、「なんでも民に与えよ」

目的を忘れないでほしい。われらは家族のために戦っている。太古より先祖の土地であった豊穣で肥沃なマカピ湖やマラピ川の沿岸地域から追いやられたカジートのために。われらの戦いはやつらの悲劇。やつらに思い知らせてやらねばなるまい。やつらが他の論理で揺るがない限り、われらがそのために戦っていると見せつけねばならない。

「たてがみ」も皇帝も伯爵も演説をぶちあげ、法を定め、公人として暮らしながら、避けられない革命を食い止めようと民にみずからの見解や哲学を説いて聞かせる。われらレンリジュラ・クリンのような法のしがらみのない組織では、行動をもって意見とせねばなるまい。激しく戦い、もうろくした敵どもをあざ笑っていればそれでいいというわけではない。その意味するところは、民と対話して味方に引き入れることである。われらは武力ではなく政治力で戦う。民が蜂起すれば敵はすごすごと引き下がるだろう。すなわち、われらの勝利である。

民になんでも分け与えるがいい。ゴールド、ムーンシュガー、それから強力な武器も。どこに隠れていようとも、彼らの心はわれらとともにあることだろう。

その六

"Abzirr Traajijazeri"

すなわち、「われらはまさしく力で奪う」

目的を忘れないでほしい。われらは泥棒で悪党、密売人で破壊人なのだ。農場を奪えないなら、燃やしつくすまで。祖先が愛した輝ける古代の砦から帝国兵が動こうとしなければ、砦をぶち壊すまで。レヤウィン伯爵の背任から土地を救うたったひとつの方法が人の住めない土地にしてしまうことだったら、そうするまでだ。

われらは暮らしと故郷を取り戻したい。ちょうど二十年前のような時代を。が、それが現実的でないなら、もっと単純かつ実利的な目標に切り替えるまでだ。復讐するのだ。笑顔をひとつ添えて。

アジル・トラジジャゼリ

FormId	skyrim.esm:01AFF3
Owning plugin	skyrim.esm
Local FormId	01AFF3
Editor ID	Book0AhzirrTraajijazeri
Inventory image	(none)
Menu art	HighPolyBasicBook03
Value (gold)	4
Type	Book or tome
Weight	1
Can be taken	Yes
Teaches	(none)
Inventory description	(none)
Keywords	VendorItemBook
Locations	1367
Leveled lists	9
Scripts	0

© Bethesda Softworks LLC and the authors of the mods in the load order.
Exported and generated with SkyrimSourceExporter.